



African Studies Center
Tokyo University of Foreign Studies

東京外国語大学
現代アフリカ地域研究センター
2024(令和6)年度活動報告

目次

1. 概要
2. 活動実績
 - 2.1. 研究活動
 - 2.1.1. 学術ジャーナル刊行
 - 2.2. 教育活動
 - 2.2.1. センター研究者による学部・大学院教育への貢献
 - 2.2.2. 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究事業「アイデアス」
 - 2.2.3. 「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」への協力
 - 2.3. シンポジウム・セミナー
 - 2.3.1. ASCセミナー
 - 2.3.2. ケープタウン大学アフリカ研究センターとの共同ワークショップ
 - 2.3.3. その他、協力イベント
 - 2.4. 人的交流
 - 2.4.1. 研究者招へい
 - 2.4.2. 留学生招致活動
 - 2.4.3. 留学生招致活動募金活動とクラウドファンディング
 - 2.5. 社会貢献、ネットワーキング
 - 2.5.1. 日本・アフリカ大学連携ネットワーク(JAAN)
 - 2.5.2. 「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」関連事業
 - 2.5.3. 南アフリカ日本大学フォーラム(SAJUフォーラム)
 - 2.5.4. その他アウトリーチ活動
 - 2.6. ウェブサイト、SNSによる情報発信
 - 2.6.1. センター公式ウェブサイト
 - 2.6.2. SNS(フェイスブック、X:旧ツイッター、インスタグラム)
 - 2.6.3. メーリングリスト
3. センターの人員構成
4. 活動記録
 - 4.1. ASCセミナー一覧
 - 4.2. 主催・協力イベント一覧
 - 4.3. 主要来訪者一覧
5. センター教員・研究員の業績
 - 5.1. 研究活動
 - 5.1.1. 著作(単著・共著・編著)
 - 5.1.2. 論文
 - 5.1.3. エッセイ、その他
 - 5.1.4. 学会・シンポジウム
 - 5.1.5. 一般向け講演
 - 5.1.6. 企画・運営・事務局等
 - 5.2. 教育活動
 - 5.2.1. 本学内における今年度担当授業

- 5.2.2. 本学以外における非常勤講師活動
- 5.2.3. 修士・博士論文指導
- 5.3. 対外活動、社会貢献
 - 5.3.1. 外部機関からの委託業務
 - 5.3.2. マスメディアからの取材・問い合わせへの対応
- 5.4. 外部資金の獲得
 - 5.4.1. 代表者
 - 5.4.2. 分担者
- 5.5. 受賞

別添

ASCセミナーチラシ一覧

1. 概要

現代アフリカ地域研究センターは、本学でアフリカに関する研究・教育の取り組みを実施し、そこに参画するとともに、それらを繋いで好循環を生み出すことを目的とする。その観点から、重要な展開があった一年だった。

本センターには学内のアフリカ研究者が所属し、それぞれの研究活動を実施している。個々の科研費やAA研の研究プロジェクトに加えて、2023年度に東京農工大学が「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に採択されたことで、さらに研究ネットワークの可能性が拡大した。同事業で電気通信大学とともに連携大学となった本学においても、研究力強化の取り組みが求められることとなったためである。同事業を所管する学際研究共創センター(TReNDセンター)サステナビリティ研究部門に武内センター長が関わることとなり、本センターと協働する体制が構築された。

このJ-PEAKS事業は西東京三大学連携の一環であり、研究面に関わるが、同じ連携の博士課程後期教育に関する取り組みとして、大学院総合国際学研究科・共同サステナビリティ研究専攻(以下、共サス)がある。共サスには2019年の設立当初より武内センター長がメンバーとして加わり、2022年度から専攻長を務めている。共サスにはアフリカからの留学生も多く、博士課程後期の指導は学生の研究活動に直結する。TReNDセンターの研究活動は、共サスを通じて、現代アフリカ地域研究センターと深く結びつく。

TReNDセンターにせよ、共サスにせよ、その守備範囲はアフリカに限らない。現代アフリカ地域研究センターとしては、地域研究の特性を活かして、専門分野横断的な観点から協力できる案件に協力するスタンスを取っている。

博士前期課程教育の取り組みとしては、日本貿易振興機構アジア経済研究所との連携(アイデアス研修)を行っている。さらに、学部生を主たる対象として、2020～24年度に「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」を実施してきた。京都大学とともに実施したこの学生交流事業によって、5年間に25人の学生をアフリカから受け入れ、のべ31人の学生をアフリカに派遣することができた。留学生の相互交流を通じて、学生間に個人的な信頼関係が醸成されるとともに、本学と協定校の関係が強化された。

この事業が今年度をもって終了することから、アフリカ人留学生の継続的な招致を目的として、2024年11月20日～2025年1月10日の期間で、クラウドファンディングを実施した。これも今年度の重要な事業であった。学生やセンター教員の協力を得て、303人から268万円の寄付を集めることができた。目標としていた250万円を上回る金額で、2025年度もザンビア、ルワンダ、カメルーンの協定校の学生5人に航空券を提供できることとなった。

このように、本センターを核として、様々な研究・教育(学部から博士課程後期まで)活動が展開する体制が構築された。これらの活動を相互に繋げることによって、本学のアフリカ地域研究がいっそう活性化し、人材育成が進むことが期待される。

こうした現代アフリカ地域研究センターを核とする研究教育体制は、当初から設計されていたというよりも、様々な事業に関わるなかで次第に認識が共有されてきたものであり、人材の配置によって今後も変化する可能性がある。現在のところ、本センターがアフリカに関する研究教育の学内外のハブとして機能していることは疑いなく、その役割を意識し、強化していきたいと考えている。

2024年度は、研究、教育面のネットワークやアウトリーチ活動に様々な成果があった。詳細は個々の記述を参照いただきたいが、センターで取り組んだものとして、南アフリカ日本大学フォーラム(SAJUフォーラム)、ケープタウン大学における研究ワークショップ、「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」関連諸イベントなどが挙げられる。ASCセミナー開催、ワーキングペーパー刊行、ウェブによるアフリカ短信(「今日のアフリカ」)なども継続して行った。官庁、メディア、企業からの問い合わせも増加しており、様々な取り組みの積み重ねがクラウドファンディングの成功にも繋がったと考えている。2025年度には第9回TICAD(アフリカ開発会議)が開催されることもあり、本センターへの期待や要請も高まることであろう。可能な範囲でそれらに応えていきたい。

(文責:武内進一)

2. 活動実績

2.1. 研究活動

現代アフリカ地域研究センター・センター教員の2024年度活動実績は、下記5.1に示すとおりである。論文や研究報告はもとより、多数の研究代表プロジェクトを遂行するなど、活発な研究活動を行っている。2024年度は、センター教員の村津蘭助教が第51回澁澤賞、第36回日本アフリカ学会研究奨励賞を受賞したことが特筆される(下記5.5.)。

2.1.1. 学術ジャーナル刊行

センターの刊行物として、『ASC-TUFS Working Papers Vol.5 (2025)』を発行した。これは、2020年度より定期刊行物となったワーキングペーパーで、第5号の刊行となる。編集委員会は下記のとおりである。第5号は6本の論文を掲載している。

編集委員長: 武内進一

編集委員: 大石高典、坂井真紀子、出町一恵、中山裕美、宮本佳和

事務局: 柳田繭子

本ワーキングペーパーをJ-Stageに掲載したことで、世界各国からアクセス、ダウンロードがなされている。J-Stageの統計によれば、2024年4月～12月のダウンロード数は、米国からの1,274件を筆頭に、シンガポール375件、日本372件、イギリス277件、ガーナ270件、中国211件、ドイツ204件、ルワンダ181件、ウガンダ105件などで、全世界からのアクセスが記録されている。

2.2. 教育活動

2.2.1. センター研究者による学部・大学院教育への貢献

国際社会学部において、特任研究員の宮本佳和が以下の授業を行った。

科目: アフリカ地域研究 2/B

題目: アフリカ政治人類学(秋学期 15 コマ)、方式は対面である。

2.2.2. 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究事業「アイデアス」

日本貿易振興機構アジア経済研究所(IDE-JETRO)では、アジア・アフリカ諸国から研修員を招き、国際経済や開発に関する研修事業を提供している。この研修事業が「アイデアス」(IDEAS: IDE Advanced School)で、1990年以来の歴史がある。2018年度から、本センターが大学院研究科とアジア経済研究所の間を取り持つ形で、本学学生をアイデアスに参加させ、大学院総合国際学研究科で単位認定する試みを開始した。秋学期に合わせてセットされたアイデアス事業に、今年度は大学院生1名が参加した。

2.2.3. 「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」への協力

2020年度から始まった「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」によって、アフリカとの学生交流が大きく進展した。2024年度は本事業の最終年度にあたり、コーディネーターの神代ちひろ特任助教を中心に、次のような活動を行った。

a. アフリカ留学説明会&報告会

6月21日、「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」、国際社会学部アフリカ地域専攻、現代アフリカ地域研究センターの共催で、東京外国語大学学生(学部生・大学院生)向けにアフリカ留学説明会&報告会を開催した。大学の世界展開力強化事業(アフリカ)のアフリカの協定校6校の紹介や安全対策、アフリカ留学で学べることなどを、アフリカ留学経験者や関係教員から説明した。ガーナ大学およびプレトリア大学での留学から帰国した学生2名による報告会も同時に開催した。

b. 国際合同コンフェレンス

10月28日、来日して本学での留学を開始したアフリカ人学生との交流促進を主目的として、第7回国際合同コンフェレンス(アフリカ留学生交流会2024)を開催した。学内から56人、学外から15人(計71人)が参加した。

1月17日、第8回国際合同コンフェレンスを開催した。「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」の本学としての締めくくりとして、本学からアフリカ協定校に留学した3人と、アフリカ協定校から本学に留学した3人が留学体験報告を行った。対面28人、オンライン23人(計51人)が参加した。

c. シンポジウム

2月17日、京都大学と合同で、「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」の国内実施大学全体での最終シンポジウムを開催した。2部構成で、第1部は学部生の経験を共有する内容とし、本学を含む7大学から11人(うち日本人7人、アフリカ人4人)の学生が留学経験とそこでの学びを発表した。第2部は実施大学によるシンポジウムで、全実施校がベストプラクティスを発表した。文科省、外務省から来賓があったほか、オンライン参加者を合わせて170人が参加した。

d. COIL型授業(短期派遣事業)

冬学期に武内センター長が授業題目「アフリカの紛争と平和構築」を開講し、ルワンダプロテスタント大学(PUR)の佐々木和之先生と共同で授業を行った。Zoomを利用し、課題文献購読に加えて、ブレイクアウトルームを用いて2つの大学の学生を議論をさせた。いわゆるCOIL型の授業で、双方の学生から好評を得た。本学学生4人が参加した。

2.3. シンポジウム・セミナー

2.3.1. ASCセミナー

ASCセミナーは、公式ウェブサイトやSNSに加えて本センターの開設したメーリングリスト(2.6.3. 参照)を用いて広報している。2024年度は、下記4.1.に示すとおり、13回のセミナーを開催し、通算回数は101回となった。開催方式は、第91, 95回が対面のみ、それ以外はハイブリッドであった。今年度開催した13回のうち、5回は国際セミナーであった。別添にASCセミナーのチラシを付す。

2.3.2. ケープタウン大学アフリカ研究センターとの共同ワークショップ

2024年9月2日、3日の2日間にわたり、ケープタウン大学アフリカ研究センターにおいて、共同ワークショップ「African State-building: Actors, Actions, Performances(アフリカ国家建設の比較研究:担い手、手法、成果)」を開催した。国際共同研究加速基金(海外連携研究)の同名の研究プロジェクトに基づくもので、以下のメンバーが参加した。

氏名	所属
Akiyo Aminaka	IDE-JETRO
Artwell Nhemachena	University of Namibia
Chizuko Sato	IDE-JETRO
Horman Chitonge	University of Cape Town
June Bam-Hutchison	University of Johannesburg
Kana Miyamoto	Tokyo University of Foreign Studies
Kazuyuki Sasaki	Protestant University of Rwanda
Kojo Amanor	University of Ghana
Robert Van Niekerk	University of the Witwatersrand
Shahid Vawda	University of Cape Town
Shinichi Takeuchi	Tokyo University of Foreign Studies

2.3.3. その他、協力イベント

a. KU-TUFSセミナー

KU-TUFSセミナーは、本センターと京都大学アフリカ地域研究資料センター(CAAS)との共催で開催される企画である。今年度は以下のとおり開催された。

◆第21回セミナー

6月24日 “Governance and Parks' Management: Participation of Local Communities, Key to a Successful and Sustainable Conservation Program. Case Study of Nyungwe National Park.” 講演者: ウムジラネンゲ・グロリオズ(センター招へい研究者)

b. 「みんなで世界を旅しよう! 2024 地球たんけんたい」

大石高典准教授が小学生向けワークショップ「アフリカの森で狩りをしよう! (カメルーン) (10月13日開催)」で講師を務めた。本センターは協力団体となった。

なお、「地球たんけんたい」の活動は、第14回(2024年度)地域研究コンソーシアム賞の「社会連携賞」を受賞した(下記5.5.)。

c. ILCAA Symposium “Situated Choices, Student Identities and Agencies for University Education in Uganda”(AA研主催国際シンポジウム「状況のなかの選択、学生のアイデンティティとエイジェンシー:ウガンダの大学教育と若者たち」)(12月7～8日)

椎野若菜准教授が中心となって組織した研究集会に、本センターが協力団体となった。

2.4. 人的交流

2.4.1. 研究者招へい

2024年度は2名の研究者をアフリカから招へいした。

a. グロリオズ・ウムジラネンゲ(Gloriose UMUZIRANENGE)

所属・役職: ルワンダ・プロテスタント大学・シニア講師

招へい期間: 2024年4月1日～7月31日

教育活動:

国際社会学部春学期講義「気候変動と開発」

講演活動:

5月23日第89回ASCセミナーで講演 "Human-Wildlife Conflicts and the Compensation Scheme around Protected areas of Rwanda. The case of Nyungwe National Park."

6月24日京都大学で講演“Governance and Parks' Management: Participation of Local Communities, Key to a Successful and Sustainable Conservation Program. Case Study of Nyungwe National Park.”

6月25日広島大学で講演“Environmental Justice and Women Empowerment in Nyungwe National Park, Rwanda Case Study on Kitabi Women Handcrafts Cooperative.”

b. チャールズ・ピレンペ(Charles PREMPEH)

所属・役職: クワメ・ンクルマ科学技術大学・リサーチフェロー

招へい期間: 2024年10月1日～2025年1月31日

教育活動:

国際社会学部秋学期講義「アフリカの宗教とパブリックガバナンス」

講演活動:

11月19日神戸大学で講演“Possessing the nations”: Religion, politics, and development in Ghana”

11月21日広島大学で講演“Nima-Maamobi in Ghana's Postcolonial Development”

11月29日第97回ASCセミナー “Our faith, our republic’: An ethnographic re-assessment of the theory of religious nationalism in Ghana's public governance.”

2.4.2. 留学生招致活動

今年度は、2020年度から始まった「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」の最終年度である。

7人の留学生(ルワンダ・プロテスタント大学、ガーナ大学、ザンビア大学各2名、ヤウンデ第一大学1名)をアフリカから受け入れ、10名の外大生をアフリカに派遣した(ルワンダ・プロテスタント大学、ザンビア大学、ガーナ大学、ステレンボッシュ大学各2名、プレトリア大学、ヤウンデ第一大学各1名)。これらはいずれも1～2セメスターを過ごす単位取得を伴った長期プログラムである。単位取得を伴わない大学院生の派遣としては、1名をプレトリア大学に長期で派遣した。それに加えて、ルワンダ・プロテスタント大学との間で2021年度からCOIL型授業(短期プログラム)を実施した(2.2.3.)。

学生の相互交流は、学生間の信頼構築、安全管理上のメリット、大学間の信頼構築など、きわめて効果と効用が大きいことを実感した。また、交換留学でやって来たアフリカ人留学生が、その後国費留学生として修士課程に入学するケースも増えている。

2.4.3. 留学生招致活動募金活動とクラウドファンディング

「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」終了後、アフリカから招致する留学生の航空運賃を確保するため、募金活動に取り組んだ。2024年度前半からセンターのホームページ(「留学生招致」ページ)を改修するとともに、現代アフリカ教育研究支援基金のパンフレットを改訂し、同基金について周知活動を開始した。

2024年11月20日～2025年1月10日には、Readyforのプラットフォームを用いてクラウドファンディングを実施した。これには坂井真紀子教授が中心となり、学生の協力を仰いで、ホームページ作成や広報活動を行った。アフリカ人留学生へのインタビューや留学中の風景動画など、学生の協力によって非常に充実したコンテンツが提供された。Readyforのページは、[こちらから](#)。

クラウドファンディングの広報のために、ASCセミナーでも次の関連イベントを行った。

第96回ASCセミナー『日本におけるアフリカ人留学生招致——その現状と課題』(2024年11月18日)講師:武内進一(東京外国語大学)、王キョ(東京外国語大学大学院総合国際学研究所)、劉瀟瀟(同)、コメンテーター:高橋基樹(京都大学)

第100回ASCセミナー『アフリカの驚くべき食文化』(2025年1月8日)講師:高野秀行(ノンフィクション作家)

結果として、クラウドファンディングでは、303人から268万円のご寄付を頂戴することができた。当初目標が150万円(3名招致金額)、ネクストゴールが250万円(5名招致金額)であったから、成功裏に成立したと総括できる。加えて、現代アフリカ教育研究支援基金への直接振り込みも25万円に達した。募金活動の成功には、学生の協力の他、学内外から温かい理解と支援をいただいたことが大きい。本学教員や東京外語会から多くのご支援をいただいたことに、改めて感謝を申し上げたい。

2.5. 社会貢献、ネットワーキング

本センターは日本におけるアフリカ研究のハブとして、ネットワーク形成と社会貢献に力を入れてきた。そうしたネットワークを通じて、研究と教育の好循環が生み出されると考えている。下記5.1.5.や5.3.に示すように、センター教員は一般向け講演への協力や学会運営への関与を通じて、様々な形で個別に社会貢献を果たしている。加えて、センターとして組織的にネットワークにも関与してきた。以下、主要な活動を挙げる。

2.5.1. 日本・アフリカ大学連携ネットワーク(JAAN)

本学は、2024年度から日本・アフリカ大学連携ネットワーク(JAAN)の副議長校を務めている。2021～23年度は議長校を務めたが、今年度から京都大学が議長校となり、長崎大学と本学が副議長校となった。2025年1月22日に運営委員会、3月17日に総会を開催した。

2.5.2. 「世界展開力強化事業(アフリカ)」関連事業

京都大学とともに実施している「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」によって学生交流が進んだが、それに付随して大学の国際担当部局との交流も進むようになった。今年度は、3月6日に、協定校の教職員を招いて懇談会を実施することができた。招へい者は次の通りである。

大学名	氏名	所属・役職など
ルワンダ・プロテスタント大学	Dr. Gloriose Umuziranenge	Senior lecturer, Faculty of Development Studies
ガーナ大学	Ms. Rosemary Tagoe	Coordinator, Study Abroad Office, International Programmes Office
ザンビア大学	Dr. Simona Simona	Senior lecturer, School of Humanities and Social sciences
ステレンボッシュ大学	Ms. Kalon Damons	Coordinator: Student Mobility, Unit for Student Mobility Centre for Global Engagement, Stellenbosch University International
ヤウンデ第一大学	Prof. Antoine Socpa	Professor, Faculty of Arts Letters and Social Sciences
	Prof. Ndogmo Guimkeng Epse Wamba	Professor, Dean of the Faculty of Arts Letters and Social Sciences

その他、次のような海外の大学、研究機関から訪問があった。
 イェール大学(米国)、ステレンボッシュ大学(南アフリカ)、アフリカ経営管理大学(ケニア)、韓国国際経済政策研究所(KIEP。韓国のシンクタンク)、Univeristies South Africa(USAf。南アフリカの大学間組織)、ヨハネスブルグ大学(南アフリカ)、政策戦略グローバルセンター(GLOCEPS。ケニアのシンクタンク)。

「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」には、学生交流事業に加えて、アフリカに関する大学、実務者組織間にネットワークを形成するプラットフォーム構築事業が含まれている。これは京都大学が主導する事業だが、昨年度は次のような活動があり、本学もそれに協力した。

5月16日 第14回実施大学会議

7月23日 第15回実施大学会議

10月7日 第16回実施大学会議

12月19日 第4回日本アフリカ高度人材育成支援委員会/外部評価委員会／第4回日本アフリカ実務組織大学交流会

また、本事業の一環で、7月11日、京都大学の高橋教授とともに武内センター長が宇都宮大学を訪問し、本事業実施に関わるヒアリングを行った。

2.5.3. 南アフリカ日本大学フォーラム(SAJUフォーラム)

2019年、2022年に続き、SAJUフォーラムの組織委員会に参加した。SAJUフォーラムは、南アフリカと日本の大学交流を促進するための会議だが、大学関係者のみならず実務者組織にも開かれたイベントになっている。2024年はステレンボッシュ大学が主催校となり、8月27～29日にステレンボッシュ市テクノパークで開催された。

会議の大部分はステレンボッシュ大学のイニシャティブで進められた。本センターを含む以下の組織が主催団体として名を連ねた。

東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、京都大学アフリカ地域研究資料センター、筑波大学チュニスオフィス、ステレンボッシュ大学日本センター、南アフリカ大学協会、在日南アフリカ大使館

会合は3日間にわたり、すべてステレンボッシュ市郊外テクノパーク内のホテルで開催された。登録数は225で、冒頭の全体会合の出席者数は175人、3日目午前のJICAチェアの出席者数は105人であった。初日夕方にステレンボッシュ大学で開催されたイベント(ガラ)の出席者数は、450人であった。

参加した大学の数は、南アフリカ側が20、日本側が24であった。南アフリカ側は、主催校ステレンボッシュ大の他に、プレトリア大、ケープタウン大、ウィッツウォーターランド大、クワズールー＝ナタール大、ヨハネスブルグ大など、都市部のトップ校から多くの参加があったほか、農村部の大学からも参加があり、高い関心が寄せられた。日本側も、京都大、筑波大、東京外国語大の幹事校をはじめ、東京大、東北大、秋田大、神戸大、早稲田大、上智大、東京都立大、立命館大、龍谷大

など多くの有力校が参加した。

南アフリカ側機関としては、研究支援を行う国立研究基金(NRF)、科学イノベーション省(DSI)などの研究関連機関が参加した。日本側からは、在南アフリカ日本大使館、文部科学省、日本学術振興会、科学技術振興機構、国際協力機構、国立研究開発法人日本医療研究開発機構、日本貿易振興機構、アジア経済研究所などから参加があった。

3日間の会議では、3つの全体会合と25のパネルが生まれ、それに加えてJICAチェアがプログラム内のイベントとして開催された。“Health and wellbeing”、“Social justice and development”、“Systems and technologies for the future”という3つのテーマを中心に、企業と学術、学生交流、人材育成、研究支援、ABEイニシャティブ、TICAD9への展望、JICAによる研究協力、日本のポップカルチャーなど興味深いテーマでパネルが立てられ、活発な議論が交わされた。

SAJUフォーラムの目的は、大学を中心とするアカデミアと実務者が一堂に会し、アカデミア内の、またアカデミアと実務者とのネットワークを構築することである。その目的は十分に達せられたと評価できる。

2.5.4. その他アウトリーチ活動

本センターのメンバーは、従来から積極的にアウトリーチ活動を行ってきた。そのなかで、ここ数年大石准教授が関わってきた「地球たんけんたい」の活動が、第14回(2024年度)地域研究コンソーシアム賞の「社会連携賞」を受賞したことは喜ばしい。その他にも、フィールドワーカーをつなぐことを目的とするNPO法人「FENICS」の活動に、椎野若菜准教授が中心的に関与している。

本センターの活動の活性化に伴って、外部からの問い合わせや要請も増えている。その成果の一部は一般向け講演(5.1.5.)やメディア対応(5.3.2.)に記載されたとおりだが、外務省やJICAの依頼を受けてアフリカの関係者向けに講演する機会も増えた。また、立川市など近隣の地方自治体からの依頼にも応えている。「今日のアフリカ」など、本センターによるアフリカに関する情報発信は、それ自身重要なアウトリーチ機能を持つと考えている。

2.6. ウェブサイト、SNSによる情報発信

2.6.1. センター公式ウェブサイト

2017年7月の公式ウェブサイトの設置以降、ホームページは着実に閲覧されてきた。ホームページは、2021年度末に導線、コンテンツ、レイアウトを大幅に更新した。今年度は、クラウドファンディングを行った際に、やはり導線・改修し寄付カテゴリに加筆した。138本を超える記事を更新した（内訳は表1）。

表1. 公式ウェブサイト記事更新数内訳

センターHP (全て記事公開日を基準にカウント)											
	お知らせ・イベント			研究活動				今日の アプリカ	留学生招致		
	お知らせ	ASCセミナー	その他のイベント	研究成果	研究プロジェクト	招へい研究者	センター刊行物		留学生紹介	活動記録	その他
2024年4月	2	2	3	0	4	2	0	4	5	0	0
2024年5月	2	1	1	0	0	0	0	7	1	0	0
2024年6月	1	1	1	0	0	0	0	6	0	0	0
2024年7月	1	0	1	0	0	1	0	4	0	1	1
2024年8月	0	0	1	0	0	0	0	3	0	1	1
2024年9月	1	2	2	0	0	0	0	10	0	1	0
2024年10月	2	2	4	0	0	2	0	5	4	0	0
2024年11月	0	1	2	0	0	2	0	7	0	0	0
2024年12月	2	3	0	0	0	1	0	8	0	0	0
2025年1月	1	0	1	0	0	1	0	6	0	0	0
2025年2月	0	0	0	0	0	1	0	6	0	0	0
2025年3月	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
小計	15	12	16	0	4	10	0	67	10	3	2
合計記事数	71	20	16	75	12	10	4	744	10	30	5

* 3月の集計データは2025年3月12日までのもの。

2.6.2. SNS(フェイスブック、X:旧ツイッター、インスタグラム)

センターに関する最新情報についてはFacebook、X、インスタグラムといったSNSでも発信している。「今日のアフリカ」やセンターのセミナーやイベントなどを頻繁に発信することにより、各フォロワー数は2025年3月12日時点で、Facebookで1242フォロワー、Xで2523フォロワー、昨年度同時期からFacebookで342、Xで1243増加している。インスタグラム(2023年9月開設)も、昨年10月から100以上の増加となり統計可能となった。こうした地道な投稿作業により、センターのイベントなどをより広く周知することが可能になっている。今年度の投稿記事数などは、表2に示すとおりである。

表 2 SNS 更新数内訳

X					フェイスブック				
	ツイート数	フォロワー	リツイート獲得数	いいね！獲得数	記事投稿数	ページのリーチ(Impr ession)	ページへのアクセス	ページへの新規「いいね！」	年度末フォロワー数
2024年4月	※無料アカウントの為、X統計非表示				10	2121	76	94	1226
2024年5月	—	—	非公開	—	17	2218	102	106	1226
2024年6月	—	—	—	—	14	2743	159	137	1226
2024年7月	—	—	—	—	14	2743	137	159	1226
2024年8月	—	—	—	—	6	1626	112	85	1226
2024年9月	—	—	—	—	6	1346	52	65	1226
2024年10月	—	—	—	—	10	1593	107	127	1226
2024年11月	—	—	—	—	40	4261	224	193	1226
2024年12月	—	—	—	—	34	4837	253	292	1226
2025年1月	—	—	—	—	22	5760	412	508	1225
2025年2月	—	—	—	—	8	3085	164	193	1234
2025年3月	—	—	—	—	4	1163	57	67	1242
2024年度小計	—	2523	—	—	185	33496	—	2026	1242

Instagram					
公開月	記事投稿数	ストーリー/動画投稿数	リーチアカウント数	リアクション数(※実際にサイトへアクセス等)	フォロワー数
2024年4月	4	—	64	—	100以下
2024年5月	1	—	40	—	100以下
2024年6月	5	—	80	—	100以下
2024年7月	2	0	77	20	100以下
2024年8月	2	1	55	1	100以下
2024年9月	0	3	54	9	100以下
2024年10月	3	0	71	22	128
2024年11月	5	1	286	27	128
2024年12月	3	0	457	18	128
2025年1月	2	2	1725	26	128
2025年2月	0	10	87	8	131
2025年3月	3	4	80	0	139
年度総計	30	21	3076	131	139

※3月の集計データは2025年3月12日までのもの。

※FacebookとXは基本的に同記事を投稿しているが、Facebookはセミナーをイベントとして作成したり、両者のインサイトページのカウントの方法が違ったりすることにより記事投稿数に差異が出ている。

※Xは2023年10月に規定が更新されたため、有償アカウントでなければ統計がとれなくなった。そのため、フォロワー数のみ統計を反映している。

※Instagramは、フォロワーが2024年10月に100名を越えたため、統計が取れるようになった。そのため、以降の統計が反映されている。

2.6.3. メーリングリスト

2025年3月15日現在、日本人向けメーリングリスト登録者数は1,133名である。また、2020年末に作成を開始した外国人向けメーリングリストの登録者数は198名に達した。

3. センターの人員構成

センター長	武内進一
センター教員(兼担)	石川博樹、大石高典、坂井真紀子、椎野若菜、品川大輔、出町一恵、中川裕、中山俊秀、中山裕美、箕浦信勝、村津蘭
特任研究員	宮本佳和
特別研究員	Emmanuel Vincent Nelson Kallon、Kinyua, Laban Kithinji、Dinah Ewuradjoa Achieng Ogara、大石晃史、林剛平、溝口大助
事務局	伊藤奈緒、柳田繭子

4. 活動記録

4.1. ASCセミナー一覧

回	開催日	講師	題目	備考
89	2024年 5月23日	講師: Dr.グロリオズ・ウムジラネンゲ (Gloriose Umuziranenge) (Senior lecturer / Protestant University of Rwanda (PUR)、 現代アフリカ地域研究センター・客員准教授)	"Human-Wildlife Conflicts and the Compensation Scheme around Protected areas of Rwanda. The case of Nyungwe National Park."	ハイブリッド方式60名(対面19 名、オンライン41名)
90	2024年 6月3日	講師: Dr. Ebeye Ndi (エベデ・ンディ博士)	"How to win trust when doing business in Africa"	ハイブリッド方式 30名(対面15名、オンライン15 名)
91	2024年 6月26日	ゲスト: ウスビ・サコ氏(京都精華大学前学長/人間環境デザ インプログラム教授/アフリカ・アジア現代文化研究センター 長) 山本貴仁 氏【アフリカ地域専攻3年】国際金融論、西アフリカ 共通通貨、ガーナへ今夏より留学 武藤幸 氏【アフリカ地域専攻4年】トゥアレグ、国境、周縁性、 文化人類学、モロッコとセネガルに留学経験、サハラ砂漠の 遊牧民研究 小森まな 氏【アフリカ地域専攻4年】生態人類学、建築、映 像、てしごと 平山絢理 氏【アフリカ地域専攻3年】紛争解決論、ソーシャル ビジネス、ルワンダへ今夏より留学 花田京弥 氏【英語専攻4年】哲学(自由論) 宍戸真生 氏【フランス語専攻4年】国際関係論、紛争、移民・ 難民問題、パリでの留学経験・アフリカ出身難民のフランス語 通訳経験 村山希風 氏【国際日本学部2年】日本語、現代日本文学	「外大生、サコさんと語る」	対面開催のみ 55名

92	2024年 7月4日	講師: Dr.Jeffrey Gunn (ジェフリー・ガン博士) (Ph.D. York University)	"Kru Wage Labour in the Nineteenth Century: Exploring Multidisciplinary Sources"	ハイブリッド形式 37名 (対面15名、オンライン22名)
93	2024年 10月8日	講演者: 栗本 英世 教授 (Prof. Eisei Kurimoto) 社会人類学者、大阪大学名誉教授、人間文化研究機構理事	『小政体、国民国家と「モニョミジ・クラスター」』	ハイブリッド方式 49名 (対面17名、オンライン32名)
94	2024年 11月9日	講演者: トイン・ンディディ・タイウオ＝オジョ氏	アフリカにおける創発『社会的危機下における模索のあり方を考える』	ハイブリッド方式 38名 (対面14名、オンライン24名)
95	2024年 11月6日	講演者: 阿部 康次氏 (駐マダガスカル・コモロ日本国特命全権大使)	日本の対マダガスカル外交～FOIPの視点から～	対面のみの開催 (29名)
96	2024年 11月18日	講演者: 武内進一 氏: 東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター長 王キヨ 氏・劉瀟瀟 氏 (東京外国語大学大学院共同サステイナビリティ研究専攻 (リサーチアシスタント) コメンテーター: 高橋基樹 氏 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授)	日本におけるアフリカ人留学生招致——その現状と課題	ハイブリッド方式 90名 (対面20名、オンライン70名)
97	2024年 11月29日	講演者: チャールズ・ピレンペ氏 (東京外国語大学 現代アフリカ地域研究センター 客員准教授 / クワメ・ンクルマ科学技術大学 リサーチフェロー) コメンテーター: 村津 蘭 氏 (東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 助教)	"Our faith, our republic": An ethnographic re-assessment of the theory of religious nationalism in Ghana's public governance	ハイブリッド方式30名 (対面12名、オンライン18名)
98	2024年 12月11日	講演者: Associate Prof. Louisa Lombard (ルイーザ・ロンバード准教授) (Associate Professor of Anthropology, Yale University)	"The Initiative-Killing Machine: The End and the Future of Peacekeeping"	ハイブリッド方式39名 (対面16名、オンライン23名)

99	2024年 12月20日	講演者: 上林 朋広 氏 (甲南大学 文学部英語英米文学科 講師)	『時間を遡る: ジョン・デュベの行儀作法書 Ukuziphatha kahleにおける「文明」と「伝統」』	ハイブリッド方式 22名 (対面6名、オンライン16名)
100	2025年 1月8日	講演者: 高野 秀行氏 (ノンフィクション作家)	『アフリカの驚くべき食文化』	ハイブリッド方式 139名 (対面44名、オンライン95名)
101	2025年 1月14日	講演者: 緒方しらべ 氏 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、助教)	『アフリカ美術史という学問: 現代アフリカの諸実践を探究する手がかりとして』	ハイブリッド方式58名 (対面18名、オンライン40名)

4.2. その他の主催・協力イベント一覧

協力形態	開催日	イベント名	関係機関
共催	2024年6月24日	Governance and Parks' Management: Participation of Local Communities, Key to a Successful and Sustainable Conservation Program. Case Study of Nyungwe National Park.	京都大学アフリカ地域研究資料センター、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
共催	2024年6月25日	Environmental Justice and Women Empowerment in Nyungwe National Park, Rwanda Case Study on Kitabi Women Handcrafts Cooperative	広島大学大学院人間社会科学研究科国際平和共生プログラム、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
協力	2024年10月5日～21日	学生たちによる展示「ガザ・フェイス～私たちは数じゃない!～」	【共催】TUFSパレスチナ連帯活動(主催)、TUFSフィールドサイエンスコモンズ、東京外国語大学 大石高典ゼミ、東京外国語大学 坂井真紀子ゼミ、東京外国語大学 アラビア語専攻有志 【協力】東京外国語大学 現代アフリカ地域研究センター、SHKRAN、GAZADESVISAGES
共催	2024年10月28日	アフリカ留学生交流会2024	東京外国語大学「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター

共同主催	2024年9月2日～3日	UCT Workshop_Programme 主題:African State-building: Actors, Actions, Performances(アフリカ国家建設の比較研究:担い手、手法、成果)	ケープタウン大学アフリカ研究所、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、国際協力機構(JICA)、科研費 基盤研究(A)「アフリカ国家論の再構築—農村からの視点」(課題番号:21H04390)、科研費 若手研究「祖先の土地の生成に関する人類学的研究—ナミビア牧畜社会の伝統的権威と国家」(課題番号:23K12351)
共催	2024年11月19日	「"Possessing the nations": Religion, politics, and development in Ghana」	神戸大学大学院国際文化学研究科、日本アフリカ学会、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
共催	2024年11月21日	「Nima-Maamobi in Ghana's Postcolonial Development」	広島大学 大学院人間社会科学研究科、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
協力	2024年12月7日～8日	ILCAA Symposium 'Situated Choices, Student Identities and Agencies for University Education in Uganda'	【主催】ILAA、TUFS 【後援】TUFisCo 【協力】MakerereUniversity、Hiroasaki University、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、ウガンダ共和国大使館
共同主催	2025年2月17日	Undergraduate Experiences in Japan and Africa: Exchange Students Symposium 学部生の日本・アフリカ交換留学シンポジウム	【主催】東京外国語大学&京都大学「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」 東京外国語大学 現代アフリカ地域研究センター

4.3. 主要来訪者一覧

日付	来訪者名
2024年4月30日	川上剛(NHK制作局)
2024年5月2日	渋谷幕張高校模擬国連部
2024年6月20日	ルワンダ大使館。Mukasine Marie Claire(大使)、Bonny Musefano(First Counsellor)、Eric Kabalisa(Executive Assistant)
2024年7月30日	今井孝志(戸田建設)
2024年8月2日	Seifudein Adam(緒方貞子平和開発研究所)
2024年9月26日	中村敏志、小田裕司、今井孝志(戸田建設)
2024年9月30日	加藤正明、浅野昌宏(アフリカ協会)
2024年10月11日	品川諭志(Verod Kepple Africa Ventures)
2024年11月11日	Wim de Villiers(ステレンボッシュ大学学長)、Jasmine Erasmus(同。国際連携担当)、Thami Mahlobo(同。国際化支援担当)
2024年11月13日	Washington Okeyo(アフリカ経営管理大学学長。The Management University of Africa, Vice-Chancellor)、Nyaga Juster(同。Senior Lecturer & Dean)
2024年11月18日	Yul Kwon(権栗) 韓国国際経済政策研究所(KIEP) 主任研究員
2024年11月23日	Mahlubi Chief Mabizela (Universities South Africa)
2024年11月25日	Ms. Anisa Khan (ヨハネスブルグ大学。Office International House)、Prof. Ylva Rodny-Gumede (同。Senior Director, Division of Internationalisation)
2024年11月27日	Dr. Ken O Asembo (Executive Director, GLOCEPS)、Amb. Solomon Maina, Dr. Caroline S. Sambai, Michael Ouma Owuor, Stephen Nyamu Nduvi, Prof. Mohamud Jama, Nina Alai (Embassy of Japan)
2024年11月30日	福島功(在ルワンダ日本国大使館特命全権大使)

2024年12月4日	田中秀和(REXVIRT代表取締役)、小寺亜麻菜(同メディアチームリーダー)
2024年12月9日	今江夏子、荒井真希子(緒方貞子平和開発研究所)、原朋弘(武蔵大学)
2024年12月10日	白戸圭一(立命館大学)
2024年12月10日	山脇遼介(Kepple Africa Ventures)ほか
2025年1月9日	森千春(読売新聞編集委員室)
2025年1月14日	Cheikh Tidiane Gadio (Institut PanAfricain de Strategie代表。元セネガル外相、下院副議長)
2025年1月17日	張勇(揚州大学外国語学院副教授)
2025年2月13日	稲葉公彦(スズキ株式会社四輪欧州・中東アフリカ本部)
2025年3月3日	黒木大輔(元駐マリ日本国大使)
2025年3月7日	能勢芳和(ゼンショーホールディングス海外事業戦略部)
2025年3月25日	ンドンゴ・ダニエル・ウベン(カメルーン国際関係研究所所長)

5. センター教員・研究員の業績

5.1. 研究活動

5.1.1. 著作(単著・共著・編著)

- Hanai, K., Kinyua, L. K., Muchetu, R. G., & Mine, Y. (2025). *Exploration of practical wisdom and resilience overcoming downside risk: Collecting grassroots voices in Africa under COVID-19*. Springer.
- Shinagawa, Daisuke (editor-in-chief) (2024) *Working Papers in African Linguistics* vol. 2, Tokyo: ILCAA
- Lee, Seunghun J., Daisuke Shinagawa, and Keita Kurabe (eds.) (2024) *Crossroads for Phonetic Typology. Journal of Asian and African Studies, Supplement Vol. 4*. Tokyo: ILCAA
- 木村大治・武内進一編(2024)『コンゴ民主共和国を知るための50章』明石書店、315頁

5.1.2. 論文

- 石川博樹(2024)「エチオピアのショア地方におけるインジェラの料理法の成立に関する歴史学研究」、『アフリカ研究』第106号、pp. 23-30.
- 石川博樹(2024)『メネン皇后学校料理書』の内容とそのエチオピア食文化史上の意義、『アフリカ研究』第106号、pp. 31-36.
- Oishi, Koji and Sakuwa Kentaro (2024) “Structural balance of alliance and rivalry networks in international relations”, *Artificial Life and Robotics*.
- 大石高典(2024)「序 犬から人類社会を見る——紀州編(特集:犬から見た近代化——猟犬からペットへ)」、『ビオストーリー』42: 44-46.
- 大石高典(2025)「カメルーンの狩猟採集民バカとバギエリの喫煙文化——とくにジェンダー差に着目して」、『生態人類学会ニュースレター』30: 98-101.
- Kinyua, L.K. (2025). Impeachment or ouster? Making sense of gubernatorial impeachment in Kenya's devolved state. *ASC-TUFS Working Papers 2025*
- Shinagawa, Daisuke (2024) A micro-parametric approach to focus marking ni in Kilimanjaro Bantu languages: With special reference to Rombo-Mkuu and Uru. In Eva-Marie Bloom Ström, and others (eds.) *Morphosyntactic Variation in Bantu*. Oxford: Oxford University Press; online edn, Oxford Academic, 21 Nov. 2024), <https://doi.org/10.1093/oso/9780198821359.003.0015>
- Shinagawa, Daisuke (2024) A sketch of we- in Uru (Bantu E622D). *Journal of Swahili and African Studies* 35: 61-76.
- Shinagawa, Daisuke (2024) A comparative sketch of TA markers in Kilimanjaro Bantu: In search of the directionality of semantic shift and micro-parametric correlation. In Gibson, Hannah, Guérois, Rozenn, Mapunda, Gastor & Marten, Lutz (eds.). *Morphosyntactic variation in East African Bantu languages: Descriptive and comparative approaches*. (Contemporary African Linguistics 8). Berlin: Language Science Press. pp. 325-349. DOI: 10.5281/zenodo.10453704
- Lee, Seunghun J., Daisuke Shinagawa, and Keita Kurabe (2024) Introduction: The Phonetic Typology (PhonTyp) Project. In Lee, Shinagawa, and Kurabe (eds.) *Crossroads for Phonetic Typology. Journal of Asian and African Studies, Supplement Vol. 4*. pp. 1-5. Tokyo: ILCAA.
- Shinagawa, Daisuke, and Seunghun J. Lee (2024) A Typological Overview of Lateral Fricatives in Southern Bantu Languages. In Lee, Shinagawa, and Kurabe (eds.) *Crossroads for Phonetic Typology. Journal of Asian and African Studies, Supplement Vol. 4*. pp. 69-89. Tokyo: ILCAA
- Shiningayamwe, Dorteia Nanghali Etuwete and Shinichi Takeuchi (2024) "Exploring actors' collaborations and involvement in the Namibian learner pregnancy policy" *Frontiers in Education*. doi: <https://doi.org/10.3389/educ.2024.1337441>
- 武内進一 (2024)「国民国家の変容と再編——アフリカからの視点」『モビリティーズの社会学』吉原直樹・飯笹佐代子・山岡健次郎(編)、pp.113-132、有斐閣
- 武内進一 (2024) 「ジェノサイドが生んだアイロニー——革命国家ルワンダの光と影」『世界』989: 227-236.
- 武内進一 (2024) 「グローバルサウス時代のアフリカはどこに向かうか」『世界経済評論』68(5):

52-60.

- 武内進一 (2025)『『宗教戦争』の条件——中央アフリカ共和国の事例から考える』『紛争地域における信頼のゆくえ』(イスラームからつなぐ7) 石井正子編、pp.37-56、東京大学出版会
- 武内進一 (2025)「暴力——平和の課題、開発の課題」『これからの国際協力——私たちが望む未来のために』高須直子・山形辰史編、pp.17-36、有斐閣
- 武内進一 (2025)「世界の国際協力潮流」『これからの国際協力——私たちが望む未来のために』高須直子・山形辰史編、pp.243-262、有斐閣
- 武内進一 (2025)「フロンティア空間の変容と領域統治の強化——ルワンダの事例から」『その空間を統治するのはだれか——フロンティア空間の人類学』佐川徹・岡野英之・大澤隆将・池谷和信(編)、pp.45-62、ナカニシヤ出版(2025年3月刊行予定)
- Mieno, Fumiharu and Kazue Demachi (2024) "Macroeconomic Imbalance, External Debt, and Financial System in Laos," *Asian Economic Policy Review* 19(2): 295-318.
- Nakagawa, Hiroshi (2024) "Onomatopoeia in Glui", In *Onomatopoeia in the World's Languages: A Comparative Handbook*. Körtvélyessy, L. and Štekauer, P. eds. Berlin, Boston: De Gruyter Mouton, pp. 197-208.
- Nakagawa, Hiroshi (2025) "Frication noise in edentulous clicks", In *Areas, families, and pools aplenty: A Festschrift for Tom Güldemann*. Fiedler, Ines and Lee J. Pratchett (eds.), Berlin: Humboldt-Universität zu Berlin.
- 堀内ふみ野, 土屋智行, 中山俊秀 (2024)『『打ちことば』の連体修飾構造に見るモード依存の構文化』、『新しい認知言語学—言語の理想化からの脱却を目指して』渋谷良方, 吉川正人, 横森大輔(編)、pp.157-180、ひつじ書房
- 中山裕美 (2024)「第18章 人の国際移動の管理と科学技術利用の新展開」『ウクライナ戦争とグローバル・ガバナンス』pp. 203-213、芦書房
- 中山裕美 (2024)「移民問題をめぐる互恵的制度構築に向けたEUの試みと限界」『国際問題』No. 720、pp. 25-34.

5.1.3. エッセイ、その他

- Ishikawa, H. (2024) "Chiharu Kamimura, Gathering around Injera with God's Grace: Ethnography of the Food Culture of Ethiopian Orthodox Christians", *Nilo-Ethiopian Studies* 29. DOI: 10.11198/niloethiopian.29.br.04
- 石川博樹(2024)「エチオピア(ベタ・イスラエル)」、『ユダヤ文化事典』、市川裕(編)、pp. 268-269、丸善出版
- 大石晃史 (2024)「武装勢力:紛争主体たちの系譜」、『コンゴ民主共和国を知るための50章』、木村大治、武内進一(編著)、pp. 242-245、明石書店
- ジェイソン・K・スターンズ(2024=2022)『名前を言わない戦争——終わらないコンゴ紛争』(武内進一監訳 大石晃史・阪本拓人・佐藤千鶴子訳)白水社
- 大石晃史、サディス純 (2025)「クーデタと粛清」、『比較政治学事典』、日本比較政治学会(編)、pp. 234-235、丸善出版
- 大石高典, 大道良太, 井上亜美, 志村真幸, 薮田慎司, 眞貝理香, 遠藤秀紀(2024)「(座談会)犬の生き物文化誌事始め——二〇二四年の日本で考える」『ビオストーリー』42: 72-79.
- 大石高典(2024)「コメント2」、『身体性を通じた社会的分断の超克と多様性の実現:公開シンポジウム(第1回)報告書』床呂郁哉編、pp. 64-70、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 大石高典(2024)「日本アフリカ学会2023年度第5回関東支部例会／第82回ASCセミナー「カメルーンの村落と都市における土地紛争、エスニシティとシティズンシップの探究」参加報告」『アフリカ研究』105: 21-22.
- 大石高典(2024)「神様によって調理された食べもの——アフリカ熱帯林のハチミツ採集文化」『vesta(食文化誌ヴェスタ)』134: 34-37.
- 大石高典(2024)「フィールドワークのおすそ分け(紹介:小佐野アコシヤ有紀著『ガーナ流家族のつくり方——世話する・される者たちの生活誌』)」『peria【ピエリア】』16: 53-53. 東京外国語大学出版会／東京外国語大学附属図書館
- 大石高典(2024)「気候変動を現場で見る／考える」『peria【ピエリア】』16: 2-3. 東京外国語大学出版会／東京外国語大学附属図書館

- 大石高典(印刷中)「熱帯河川の寄物たち—思わぬ収穫と出会う」『ザ・フィールドワーク—128人のおどろき・とまどい・よろこびから広がる世界』生態人類学会編、2pp、京都大学学術出版会
- Kinyua, K. and Babirye, R. (2025). Belonging beyond borders: Support networks and integration for African immigrants in Japan. In B. Maingwa (Ed.), *Boundaries Traversed: Belonging, Home, and the Gradations of Return*. Palgrave Macmillan/Hurst & Co. Publishers.
- Kinyua, L. K. (2025). Making queer African Ekklesia: Young gospel ministers and politicized sexualities in Kenya. In W. Shiino (Ed.), *Sexuality in Contemporary Africa: Tradition, Education, and Practices*. Research Institute for Language and Cultures in Contemporary Africa.
- Kinyua, L.K. (2024). *Kenya's Gen Z Protests 2024: Beneath the Rage*. Japan Society for Afrasian Studies. <https://www.afrasia.org/post/kenya-s-gen-z-protests-2024-beneath-the-rage>
- ジェイソン・K・スターンズ(2024=2022)『名前を言わない戦争——終わらないコンゴ紛争』(武内進一監訳 大石晃史・阪本拓人・佐藤千鶴子訳)白水社
- 武内進一 (2024)「気候変動がアフリカに与える影響」『ビュリア』16: 10-11.
- 武内進一 (2024)「多角的に迫るアフリカ」『中央公論』138(11): 54-57.
- 武内進一 (2024)「ホレーショ・ブリッジ著／ナサニエル・ホーソーン編／大野美砂・高尾直知・中西佳世子訳『アフリカ巡航者の日誌——ペリー艦隊、奴隷貿易、リベリア』」『フォーラム』(日本ナサニエル・ホーソーン協会)29: 117-122.
- 中川裕、加藤幹治、木村公彦、大野仁美、Bihela Sekere, Gakedumele Sekere (2024)「カラハリ狩猟採集民の言語への正書法導入」(学会通信: 日本アフリカ学会第61回学術大会フォーラム報告)『アフリカ研究』106: 45-50.
- ジュリアン・リース(2025)『宗教の起源』(溝口大助・江川純一他訳)、国書刊行会
- 溝口大助(2025)「マリ帝国の神話」、『世界の神話・伝説文化事典』、松村一男・沖田瑞穂他(編)、丸善出版
- 溝口大助(2025)「ムブティの神」、『世界の神話・伝説文化事典』、松村一男・沖田瑞穂他(編)、丸善出版
- 宮本佳和(2024)「ナミビアのジェノサイド追悼の日の議会承認と意見の相違」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和(2024)「首長ら、ジェノサイドに関する政府主催の集会への招待を辞退」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和(2024)「ナミビアにおける8月26日」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和(2024)「ナミビア、生きたシロサイを米国へ輸出」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和(2024)「ナミビアにおけるLGBTQIA+とメディア報道」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和(2024)「10年にわたるジェノサイド交渉の閉幕と波紋」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和(2025)「再交渉後の共同宣言への強い反発」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和(2025)「ナミビア初代大統領死去」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 宮本佳和(2025)「ナミビアビール、ケニア市場へ再参入」『今日のアフリカ』、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターウェブサイト
- 村津蘭「SNS の普及と宗教の変容—アフリカのキリスト教系宗教の事例から」『IISR 国際宗教研究所ニュースレター』100号、pp.11-12、公益財団法人 国際宗教研究所
- 村津蘭「フィールドで出会ったモノ語り1—ベナンの呪物」『白水社の本棚』裏表紙、2024年07月10日

5.1.4. 学会・シンポジウム

- 石川博樹「一皿の料理からみるアフリカ史：エチオピアのインジェラをめぐる歴史研究の事例から（公開シンポジウム「世界観を拓げるアフリカ史：アプローチを変えると見えない（歴史）世界

- が見えてくる))」、日本アフリカ学会第61回学術大会、大阪大学、2024年5月19日
 石川博樹「19世紀中葉のエチオピアのショア地方におけるパン文化の変化とその背景」、日本ナイル・エチオピア学会第33回学術大会、東洋大学、2024年4月21日
- Oishi, Koji and Jun Koga Sudduth “Temporal Dynamics of Power Consolidation in Dictatorships: An agent-based model on coalition formation and power shift”, 120th American Political Science Association Annual Meeting & Exhibition, Philadelphia, USA, September 5-8, 2024.
- Oishi, Takanori ”Comments for the Exchange Programme Experience”, IAFp Achievements and Future Collaboration with African Partner Universities: TUFs “Inter-University Exchange Project (Africa)” Closing Conference, Tokyo University of Foreign Studies “Inter University Exchange Project (Africa)” Project, 2025年1月17日
- 大石高典、「漁労における人と魚の身体性：釣り行為を成立させる身体性と遊戯性についての一考察」、共同利用・共同研究課題「身体性の人類学—「もの」の人類的的研究(4)—」2024年度第2回研究会、アジア・アフリカ言語文化研究所、2024年11月17日
- 大石高典、「何のために自然を人類学するのか？：日本の生態人類学と欧米のマルチスピーシーズ民族誌に関する一考察」『環境人文学勉強会』東京大学農学部、2024年9月30日
- 大石高典、「森林居住「狩猟採集民」の生業・移動とレジリエンス——アフリカ・コンゴ盆地西部の3集団の比較から」共同研究会「アジアの狩猟採集民の移動と生業——多様な環境適応の人類史」、国立民族学博物館、2024年7月21日
- 大石高典、「アフリカ熱帯林の狩猟採集社会における喫煙文化の多様性——バカ、バコラ／バギエリ、アカの比較から」日本アフリカ学会第61回学術大会、大阪大学外国語学部、2024年5月19日
- Kinyua, L. K. Belonging beyond borders: Support networks and integration for African immigrants in Japan. Paper presented at Japan Association for African Studies Conference. Osaka University. May 2024.
- Shiino, Wakana. 'How do female humanities students decide on their course and envision their future? : Women, Education, and Work in Contemporary Uganda.' at the ILCAA Symposium ‘Situating Choices, Student Identities and Agencies for University Education in Uganda, 8 December 2024.
- Shinagawa, Daisuke. Linguistic diversity in Kilimanjaro Bantu languages: focusing on cross-linguistically uncommon features. Institutskolloquium ifeas: Institut für Ethnologie und Afrikastudien. Johannes Gutenberg University Mainz. May 14, 2024
- Shinagawa, Daisuke, Makoto Furumoto, Nico Nassenstein. “ECS” and “Inland Swahili” revisited: substantiating terminology based on linguistic facts and realities. Kongamano la Kiswahili la Thelathini na sita Bayreuth/ Swahili colloquium Bayreuth, tarehe 18 Mei, 2024/ May 18, 2024
- Nassenstein, Nico, Daisuke Shinagawa, and Makoto Furumoto. Emerging heterogeneity of “Standard” varieties: Swahili bora and Union Ngwana in relation to ECS. Research on Western Swahili: 2nd Workshop and Study Meeting. June 22, 2024
- 品川大輔「パラメータ駆動型アプローチによるバントウ諸語類型論：フィールドデータに基づく一般化の試み」、日本言語学会第168回大会公開シンポジウム「言語理論とフィールド言語学によるデータの接点」、2024年6月30日
- Shinagawa, Daisuke. Current morphosyntactic innovations in Kenyan colloquial Swahili: with special reference to the class 8 relativiser venue. World Congress of African Linguistics, University of Nairobi. August 8, 2024
- Shinagawa, Daisuke and Lutz Marten (organisers) Revisiting the perspectives on information status marking strategies in Bantu. A workshop at 10th International Conference on Bantu languages. Dar es Salaam University College of Education. Aug 13, 2024
- Shinagawa, Daisuke, Nobuko Yoneda, and Yuko Abe. Five years from the ILCAA Bantu-MV project: A critical review and a future perspective. The 2nd meeting of the joint research project ‘Diachronic Perspective on Language Documentation and Typology in Bantu (Bantu DiP)’ . Aug 15, 2024
- Lee, Seunghun J., Haseru Ida, Daisuke Shinagawa, Makoto Furumoto. Exploring the prosody of double object constructions of Southern Bantu Languages. Phonology Forum 2024. Nagoya Gakuin University. August 22, 2024

- Shinagawa, Daisuke. Linguistic diversity and uniqueness in Kilimanjaro Bantu. Int'l WS "Working together for sustainable society: nature, culture, diversity", The University of Tokyo, Kashiwa [presented online]. September 6, 2024
- Shinagawa, Daisuke. Linguistic diversity of Kilimanjaro Bantu languages through a lens of Japanese. Seminar on Japanese linguistics at Japan Foundation - New Delhi [presented online]. September 19, 2024
- 品川大輔, 加藤幹治「守野・中島(編)『スワヒリ語辞典』オンライン・データベース - 構築の経緯と概要」, 2024年度IRCプロジェクト成果発表会 [オンライン], 2024年9月26日
- Shinagawa Daisuke. Comments at the Workshop "Phonetic typology of liquids: a cross-linguistic perspective", The 38th General Meeting of the Phonetic Society of Japan, Daito Bunka University, September 28, 2024.
- Shinagawa, Daisuke. Western influence on Kenyan Colloquial Swahili: focusing on the relativiser -enye. Project meeting of the Leverhulme funded project "Variation in Swahili: contact, change and identity" [presented online]. October 2, 2024.
- Shinagawa, Daisuke. Towards a heuristic approach to cross-Bantu typology: drawing on historical, theoretical, and descriptive linguistics. Presentation at SOAS University of London (<https://www.soas.ac.uk/about/event/towards-heuristic-approach-cross-bantu-typology-drawing-historical-theoretical-and>). October 4, 2024
- Shinagawa, Daisuke. A micro-parametric approach to focus marking ní in Kilimanjaro Bantu languages: With special reference to Rombo-Mkuu and Uru. Launch event for Morphosyntactic variation in Bantu (OUP) [presented online]. November 29, 2024
- Takeuchi, Shinichi, Horman Chitonge, Shahid Vauda, Chizuko Sato, Kana Miyamoto. (2024) "African state-building: Actors, actions, performances". 6th South Africa – Japan University (SAJU) Forum held at Stellenbosch University (Wednesday 28 August) The SAJU Forum was held between 27 and 29 August.
- Takeuchi, Shinichi. (2024) "African state-building: Actors, actions, performances". Workshop at the University of Cape Town. African State-building: Actors, Actions, Performances. (Monday 2 September) The workshop was held between 2 and 3 September.
- 中川裕「クリック流入音における噪音性の音源:グイ語の事例によるハグマンの仮説の検証」、日本言語学会第161回大会、北海道大学、2024年11月10日
- 中川裕「フォーラム①:カラハリ狩猟採集民の言語への正書法導入:母語話者との共同による実践」日本アフリカ学会第61回学術大会、大阪大学、2024年5月18日
- 中川裕、大野仁美、Bihela Sekere, Gakedumele Sekere「フォーラム①:グイ・ガナ正書法の遠隔訓練」日本アフリカ学会第61回学術大会、大阪大学、2024年5月18日
- 中山裕美「国境管理ガバナンスと科学技術:アフリカ国境を事例として」グローバル・ガバナンス学会第20回研究会、オンライン、2024年10月31日
- 林剛平「山形県西置賜郡のブナ林の地球観測衛星画像をマタギと一緒に見る」、日本森林学会第135回学術大会、東京農業大学、2024年3月8日
- 林剛平「12年間の山形県放射線量調査と森林資源利用の今後の見通し」、第25回「環境放射能」研究会、高エネルギー加速器研究機構、2024年3月11日
- Miyamoto, Kana. 'Fragmented Traditional Authority: Lessons from Grazing Disputes among Otjiherero-speaking People in North-west Namibia', International Small Workshop Looking Towards the United Nations International Year of Rangelands and Pastoralists 2026: A United Kingdom-Japan Interexchange Dialogue Featuring Field Research Conducted Inner Asia and Africa, Hosei University/online, 11 May, 2024.
- Miyamoto, Kana. 'Re-visited Epupa Dam Debate: Chieftaincy Disputes in North-west Namibia', International Hyflex Sessions: Living in Anthropocene, Living in Uncertainty: New Predicaments for Pastoralism, Sussex University/online, 8 August, 2024.
- Takeuchi, Shinichi, Horman Chitonge, Shahid Vauda, Chizuko Sato, Kana Miyamoto. 'African State-building: Actors, Actions, Performances', 6th South Africa-Japan University Forum (SAJU 6), Stellenbosch University, 28 August, 2024.
- Miyamoto, Kana. 'Re-imagining the Post-apartheid Namibian State: Ethnographical Approach to State-building', Workshop at the University of Cape Town 'African State-building: Actors, Actions, Performances', Centre for African Studies, University of Cape Town, 2 September,

2024.

Miyamoto, Kana. 'Re-visited Epupa Dam Debate: Chieftaincy Disputes in North-west Namibia', World Anthropological Union Congress 2024, University of Johannesburg/online, 12 November, 2024.

宮本佳和「アパルトヘイト後の国家を再想像するーナミビアの「カオコランドの首長」の墓参りの事例から」、甲南大学文学部英文科／日本アフリカ学会関西支部2024年度第11回例会、甲南大学、2024年12月9日

Ran Muratsu "Transformation of Human-Nonhuman Relations in Herbal Healing through the Social Network Services", The 20th IUAES-WAU World Anthropology Congress 2024, Johannesburg, South Africa and Online, November 12, 2024.

Ran Muratsu "Distancing from the Emerged “Thing”": Religious Healing and Biomedicines in Pentecostal-Charismatic Churches in Benin", International Symposium “Affecting Spiritual Healing, Re-making (Alternative) Worlds”, Kyoto University, December 8, 2024.

5.1.5. 一般向け講演

Oishi, Takanori, "Comments to the films", nexCafé #9: Playing at Being Human, Swissnex Japan, 2024年10月16日

坂井真紀子「南部アフリカの独立闘争に見るグローバルサウスへの道ー地域の連帯に注目して」、世界史セミナー@東京外国語大学、2024年8月3日

坂井真紀子「グローバルサウスの中のアフリカと人権問題ー南部アフリカの独立闘争の連帯の歴史から」、がんばろう日本！国民協議会、第223回東京・戸田代表を囲む会@市ヶ谷、2024年9月9日

坂井真紀子「カメルーン西部のフシギな暦」、地平線会議報告会@新宿榎町地域センター、2024年9月28日

武内進一「フランスとルワンダー対アフリカ外交の蹉跌と転換」日仏会館(日仏文化講演シリーズ第383回)2024年4月19日

Takeuchi, Shinichi. "Governing land rights in Japan: Interventions from above, responses from below." Fourth JICA Chair Lecture. Stellenbosch University Japan Centre. (Thursday 29 August, 9:00-10:30)

Takeuchi, Shinichi. "La gestion des droits fonciers au Japon : interventions d'en haut, réponses d'en bas." JICA Chair. Université de Kinshasa. (Friday 6 September).

武内進一「アフリカの歴史と未来ー相互理解と共生に向けて」『多文化共生・国際理解講座』立川市生涯学習推進センター・市民協働課・特定非営利活動法人時事英語ーアフリカと日本の絆(2024年11月2日立川市西砂学習館)

武内進一・王キョ・劉瀟瀟「日本におけるアフリカ人留学生招致ーその現状と課題」第96回ASCセミナー(2024年11月18日)

武内進一「アフリカ人留学生を招く」NPO法人アフリカ日本協議会30周年特別企画 第1部シンポジウム「アフリカと日本: 人々がつないだ30年と未来」(2024年11月23日JICA地球ひろば6階セミナールーム600)

武内進一「アフリカへの美術品返還とその背景ー脱植民地化過程の新局面」アフリカ協会文化・社会委員会主催「アフリカの文化と芸術を知る」シリーズ 第3回講演会(2025年2月20日)

武内進一 “La Coopération Internationale du Japon avec l'Afrique” 外務省講師派遣事業オンライン講演。ギニア、モーリタニア向け(2025年2月27日)

中川裕、大野仁美、Bihela Sekere, Gakedumele Sekere「グイ・ガナ正書法の遠隔訓練の成果と文字の表語機能」東京外国語大学語学研究所定例研究会・東京アフリカ言語学研究会(TALK)、オンライン、2024年6月12日

村津蘭「アフリカ呪術、アフリカ神社」東京自由大学【宗教を考える学校】 2024年度、オンライン、2024年10月19日

5.1.6. 企画・運営・事務局等

大石高典 ワークショップ「アフリカの森で狩りをしよう！(カメルーン)」、マナラボ 環境と平和の学びのデザイン、東京外国語大学フィールドサイエンスコモンズ(TUFiSCo)、日本学術振興

会科学研究費基盤研究(C)「パフォーマンスによるフィールドの共創的再現:人類学的教育実践の協働と展開」(代表:飯塚宜子),日本学術振興会科学研究費若手研究「学校教育の知識観がアフリカ狩猟採集社会にもたらす影響に関する言語社会化研究」(代表:園田浩司),日本学術振興会学術知共創プログラム「身体性を通じた社会的分断の超克と多様性の実現」(代表:床呂郁哉),東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究人類学「社会性的人类学的探究:トランスカルチャー状況と寛容/不寛容の機序」体験型ワークショップ みんなで世界を旅しよう! 2024 地球たんけんたい in Tokyo × 人類学カフェ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(東京都府中市) 2024年10月13日

大石高典 ポスター・詩・エッセイ展「ガザ・フェイス～私たちは数じゃない!～」,TUFS・パレスチナ連帯活動(主催),TUFSフィールドサイエンスコモンズ,東京外国語大学大石高典ゼミ,東京外国語大学坂井真紀子ゼミ,東京外国語大学アラビア語専攻有志(共催) 東京外国語大学研究講義棟ギャラリー、2024年10月5日 - 2024年10月21日

大石高典 TUFSシネマ・謎のいきもの映画上映会『おらが村のツチノコ騒動記』、東京外国語大学 TUFS Cinema、東京外国語大学国際社会学部大石高典ゼミ、TUFSフィールドサイエンスコモンズ(TUFiSCo)、東京外国語大学(東京都府中市)、2024年10月26日

大石高典 沖縄県宜野座村×カメルーン フィールド共創ワークショップ「アフリカの森で歌おう!」宜野座村文化まちづくり事業実行委員会 令和6年度内閣官房事業・万博国際交流プログラム 沖縄県宜野座村ふれあい交流センター、2025年1月20日 - 2025年1月21日

Kinyua, L.K. Seminar: African Studies in Africa as Generational and Epistemological Insurrections. https://dept.sophia.ac.jp/is/iac/en/news/docs/news20240610_256165609.html

椎野若菜 FENICS×アフリカ学会第61回大会実行委員会共催 フィールドワーカーのライフイベント「お互い院生、結婚・出産どう決めたお金は?日々の子育てのリアル」、2024年5月19日

Shiino, Wakana. ILCAA Symposium ‘Situating Choices, Student Identities and Agencies for University Education in Uganda’, 7-8 December 2024.

Shiino, Wakana. The study meeting of ILCAA Joint Research Projects ‘Situating Gender, Sexuality and Family in Eastern Africa: Lessons and Challenges from Uganda and Beyond’, 8 February 2025.

椎野若菜 展示「レジリエント・ライフ:強制撤去からの帰還と再建」、東京工芸大学中野キャンパス 6号館、2025年3月2日～23日

Takeuchi, Shinichi. Workshop at the University of Cape Town. “African State-building: Actors, Actions, Performances” 2-3 September 2024.

Miyamoto, Kana. Workshop at the University of Cape Town. “African State-building: Actors, Actions, Performances” 2-3 September 2024.

宮本佳和「“Our faith, our republic”: An ethnographic re-assessment of the theory of religious nationalism in Ghana’s public governance」(講師:Charles Prempeh, 司会:宮本佳和)、第97回ASCセミナー／日本アフリカ学会関東支部2024年度第8回例会、東京外国語大学／オンライン、2024年11月29日

宮本佳和「時間を遡行する:ジョン・デュベの行儀作法書Ukuziphatha kahleにおける「文明」と「伝統」」(講師:上林朋広, 司会:宮本佳和)、第99回ASCセミナー／日本アフリカ学会関東支部2024年度第7回例会、東京外国語大学／オンライン、2024年12月20日

宮本佳和「アフリカ美術史という学問:現代アフリカの諸実践を探究する手がかりとして」(講師:緒方しらべ, 司会:宮本佳和)、第101回ASCセミナー／日本アフリカ学会関東支部2024年度第9回例会、東京外国語大学／オンライン、2025年1月14日

5.2. 教育活動

5.2.1. 本学内における今年度担当授業

石川博樹	国際社会学部	アフリカ地域研究1	世界史のなかのエチオピア	秋
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究1	アフリカ歴史文化論	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究2	アフリカ歴史文化論	秋
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究2	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	春

		ルド地域研究1		
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフ ィールド地域研究2	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	秋
大石高典	世界教養プログラム	専攻言語(英語Ⅱ-1)	アフリカ研究のための英語1	春
大石高典	世界教養プログラム	専攻言語(英語Ⅱ-6)	アフリカ研究のための英語2	秋
大石高典	世界教養プログラム	アフリカ地域基礎2	アフリカ地域研究入門2	秋
大石高典	世界教養プログラム	アフリカ地域基礎3	アフリカから「地域研究」を展望する	春
大石高典	国際社会学部	地域社会研究入門1	地域社会とSDGs	春
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究1	民族誌から学ぶアフリカの生活世界1	春
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究2	民族誌から学ぶアフリカの生活世界2	秋
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究演習3	フィールド人類学・地域研究	春
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究演習4	フィールド人類学・地域研究Ⅱ	秋
大石高典	国際社会学部	卒業研究演習1	卒業論文/卒業研究ゼミ Part 1	春
大石高典	国際社会学部	卒業研究演習2	卒業論文/卒業研究ゼミ Part 2	秋
大石高典	国際社会学部	卒業研究	プロセスとしての卒業論文/卒業研究	通 年
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセア ニア地域研究17	生態人類学の理論と方法Ⅰ	春
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセア ニア地域研究18	生態人類学の理論と方法Ⅱ	秋
大石高典	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	修士論文ゼミ(生態人類学)Ⅰ	春
大石高典	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	修士論文ゼミ(生態人類学)Ⅱ	秋
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセア ニア地域研究1	生態人類学講義Ⅰ	春
坂井真紀子	世界教養プログラム	専攻言語(英語Ⅰ-9)	英語で学ぶアフリカⅡ(E)	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	教養外国語(フランス語 B3)	フランス語で見るアフリカⅠ	春
坂井真紀子	世界教養プログラム	教養外国語(フランス語 B4)	フランス語で見るアフリカⅡ	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	アフリカ地域基礎1	アフリカ地域研究入門1	春
坂井真紀子	国際社会学部	地域社会研究入門2	地域研究入門	秋
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究1	アフリカ農村社会学	春
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究2	アフリカと開発	秋
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究演習1	アフリカ地域ゼミ	春
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究演習2	アフリカ地域ゼミ	秋
坂井真紀子	国際社会学部	卒業研究演習1	卒業論文演習Ⅰ	春
坂井真紀子	国際社会学部	卒業研究演習2	卒業論文演習Ⅱ	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセア ニア地域研究17	仏語圏アフリカ地域研究Ⅰ	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセア ニア地域研究18	仏語圏アフリカ地域研究Ⅱ	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	アフリカ地域研究ゼミ	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	アフリカ地域研究ゼミ(2)	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセア ニア地域研究1	アフリカ地域研究～農村の暮らしと開発～	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセア ニア地域研究2	アフリカ地域研究～農村の暮らしと開発～	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフ ィールドサイエンス実践研 究1	社会人類学の調査研究:ジェンダー・セク シュアリティ、家族・親族、若者、アフリカに 注目して	春
椎野若菜	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	修士論文のためのジェンダー・セクシュア リティの人類学(1):アジア・アフリカ地域	春
椎野若菜	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	修士論文のためのジェンダー・セクシュア リティの人類学(2):アジア・アフリカ地域	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフ ィールド人類学1	ジェンダー・セクシュアリティの人類学(1):ア ジア・アフリカ地域	春
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフ ィールド人類学2	ジェンダー・セクシュアリティの人類学(2):ア ジア・アフリカ地域	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフ ィールド地域研究1	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	春
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフ ィールド地域研究2	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	秋
品川大輔	世界教養プログラム	諸地域言語(スワヒリ語Ⅰ)	スワヒリ語中級Ⅰ	春

品川大輔	世界教養プログラム	諸地域言語(スワヒリ語2)	スワヒリ語中級2	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールドサイエンス言語研究2	形態統語論基礎演習	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学1	バントゥ諸語系統内類型論の射程	春
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学2	バントゥ諸語系統内類型論の射程	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールドワーク1	アジア・アフリカにおけるフィールドワーク	春
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールドワーク2	アジア・アフリカにおけるフィールドワーク	秋
出町一恵	世界教養プログラム	専攻言語(英語Ⅲ-7)	経済思想を読む	春
出町一恵	世界教養プログラム	専攻言語(英語Ⅲ-8)	世界経済グローバル化の歴史	秋
出町一恵	世界教養プログラム	AI・データサイエンス1	分析道具としてのデータサイエンス入門【DS102】(リレー講義)	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済概論2	国際金融概論	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学1	国際経済学Ⅰ	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学2	国際経済学Ⅱ	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学演習1	国際経済論(専門演習)Ⅰ	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学演習2	国際経済論(専門演習)Ⅱ	秋
出町一恵	国際社会学部	卒業研究演習1	国際経済論(卒論演習)Ⅰ	春
出町一恵	国際社会学部	卒業研究演習2	国際経済論(卒業論文)	秋
出町一恵	国際社会学部	卒業研究	国際経済論(卒業論文)	通年
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究3	Research Seminar on International Economics	春
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究4	Research Seminar on International Economics	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究基礎A	サステイナビリティ研究基礎 A	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究基礎B	サステイナビリティ研究基礎 B	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅠ	協働分野セミナーⅠ	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅠ	協働分野セミナーⅠ	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅡ	協働分野セミナーⅡ	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅡ	協働分野セミナーⅡ	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅢ	Sustainability Research Advanced Practicum III	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅢ	Interdisciplinary Seminar III	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅣ	Interdisciplinary Seminar IV	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅣ	Interdisciplinary Seminar IV	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅤ	Interdisciplinary Seminar V	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅤ	Interdisciplinary Seminar V	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅥ	Interdisciplinary Seminar VI	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅥ	Interdisciplinary Seminar VI	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習Ⅰ	サステイナビリティ研究先端演習Ⅰ	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習Ⅰ	サステイナビリティ研究先端演習Ⅰ	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習Ⅱ	サステイナビリティ研究先端演習Ⅱ	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習Ⅱ	サステイナビリティ研究先端演習Ⅱ	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習Ⅲ	協働分野セミナーⅢ	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習Ⅲ	Sustainability Research Advanced Practicum III	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習Ⅳ	Sustainability Research Advanced Practicum IV	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習Ⅳ	Sustainability Research Advanced Practicum IV	春
出町一恵	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	春
出町一恵	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	秋
出町一恵	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	春
出町一恵	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	秋
中川裕	言語文化学部	音声学概論1	音声学基礎	春
中川裕	言語文化学部	音声学概論2	音韻論概説:音素・素性	秋
中川裕	言語文化学部	卒業研究演習1	音声学・音韻論卒業研究演習	春

中川裕	言語文化学部	卒業研究演習2	音声学・音韻論卒業研究演習	秋
中川裕	言語文化学部	卒業研究		通年
中川裕	言語文化学部	音声学演習1	音声学演習1	春
中川裕	言語文化学部	音声学演習2	音韻論演習	秋
中川裕	総合国際学研究科	音声学研究1	音響音声学の観察法	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学研究2	音声学再入門	秋
中川裕	総合国際学研究科	音声学1	音声学・音韻論セミナー1	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学2	音声学・音韻論セミナー2	秋
中山俊秀	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学1	言語使用を基盤として文法を考える:理論と方法	春
中山俊秀	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学2	言語使用を基盤として文法を考える:新たな展開	秋
中山裕美	国際社会学部	国際政治概論2	国際政治理論	春
中山裕美	国際社会学部	国際政治論1	グローバルガバナンス論と難民・移民問題	春
中山裕美	国際社会学部	国際政治論2	地域主義比較分析	秋
中山裕美	国際社会学部	国際政治論演習1	国際協調	春
中山裕美	国際社会学部	国際政治論演習2	国際協調	秋
中山裕美	国際社会学部	卒業研究演習1	国際協調	春
中山裕美	国際社会学部	卒業研究演習2	国際協調	秋
中山裕美	国際社会学部	卒業研究	国際協調	通年
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係研究1	国際協調	春
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係研究2	国際協調	秋
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係論1	国際協調	春
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係論2	国際協調	秋
箕浦信勝	世界教養プログラム	アフリカの言語1	マダガスカル語	春
箕浦信勝	世界教養プログラム	アフリカの言語2	マダガスカル語	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学概論3	言語学概論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学概論4	言語学概論	秋
箕浦信勝	言語文化学部	卒業研究演習1	言語学卒論演習	春
箕浦信勝	言語文化学部	卒業研究演習2	言語学卒論演習	秋
箕浦信勝	言語文化学部	卒業研究	言語学卒業論文	通年
箕浦信勝	言語文化学部	言語学3	形態論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学4	統語論入門	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学演習5	言語記述のための類型論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学演習6	言語記述のための類型論	秋
箕浦信勝	世界教養プログラム	基礎演習	論文作成法とプレゼンテーション	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究1	個別言語の文法記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究2	個別言語の文法記述研究	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学1	言語記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学2	言語記述研究	秋
武内進一	国際社会学部	国際政治概論1	国際協力の史的展開	春
武内進一	国際社会学部	国際協力論1	気候変動と開発	春
武内進一	国際社会学部	国際協力論2	アフリカの紛争と平和構築	冬
武内進一	国際社会学部	国際協力論演習1	国際社会の思想と行動A	春
武内進一	国際社会学部	国際協力論演習2	国際社会の思想と行動B	秋
武内進一	国際社会学部	卒業研究演習1	卒業論文演習I(国際協力論)	春
武内進一	国際社会学部	卒業研究演習2	卒業論文演習II(国際協力論)	秋
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究17	現代アフリカ政治	春
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究18	国際関係論における開発	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究1	IDEAS国際開発論講義(1)	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究2	IDEAS国際開発論講義(2)	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究3	IDEAS国際開発論講義(3)	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究4	IDEAS国際開発論講義(4)	秋
武内進一	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ1	修士論文指導	春
武内進一	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ2	修士論文指導	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究基礎A	サステイナビリティ研究基礎A	春
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究基礎B	サステイナビリティ研究基礎B	秋

武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅠ	協働分野セミナーⅠ	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅠ	協働分野セミナーⅠ	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅡ	協働分野セミナーⅡ	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅡ	協働分野セミナーⅡ	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅢ	協働分野セミナーⅢ	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅢ	協働分野セミナーⅢ	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅣ	協働分野セミナーⅣ	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅣ	協働分野セミナーⅣ	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅤ	協働分野セミナーⅤ	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅤ	協働分野セミナーⅤ	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅥ	協働分野セミナーⅥ	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナーⅥ	協働分野セミナーⅥ	春
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究 先端演習Ⅰ	サステイナビリティ研究先端演習Ⅰ	春
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究 先端演習Ⅰ	サステイナビリティ研究先端演習Ⅰ	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究 先端演習Ⅱ	サステイナビリティ研究先端演習Ⅱ	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究 先端演習Ⅱ	サステイナビリティ研究先端演習Ⅱ	春
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究 先端演習Ⅲ	サステイナビリティ研究先端演習Ⅲ	春
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究 先端演習Ⅲ	サステイナビリティ研究先端演習Ⅲ	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究 先端演習Ⅳ	サステイナビリティ研究先端演習Ⅳ	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究 先端演習Ⅳ	サステイナビリティ研究先端演習Ⅳ	春
武内進一	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	春
武内進一	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	秋
武内進一	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	春
武内進一	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	秋
宮本佳和	国際社会学部	アフリカ地域研究2	アフリカ政治人類学	秋
宮本佳和	国際社会学部	国際協力論2	アフリカの宗教とパブリックガバナンス	秋
Kinyua, Laban Kithinji	世界教養プログラム	専攻言語(英語Ⅱ-2)		春
Kinyua, Laban Kithinji	世界教養プログラム	専攻言語(英語Ⅱ-7)		秋

5.2.2. 本学以外における非常勤講師活動

石川博樹	青山学院大学	文学部史学科	東洋史特講	春・秋
石川博樹	早稲田大学	商学部	地域の歴史	春
石川博樹	慶應義塾大学	商学部	歴史Ⅱ「現代社会の なかのアフリカ史」	秋
石川博樹	放送大学	東京渋谷学習セン ター	ライブWeb授業「アフ リカ史のなかの女性 たち」	春
大石高典	亜細亜大学	国際関係学部	アフリカ開発論	春
大石高典	早稲田大学	大学院文学研究科	人類学特論1	春
大石高典	上智大学	大学院グローバル・ スタディーズ研究科	生態人類学	秋
大石高典	早稲田大学	大学院文学研究科	人類学特論2	秋
Kinyua, Laban Kithinji	法政大学	法学部	アフリカ政治と社会 1.2	春・秋

Kinyua, Laban Kithinji	上智大学大学	総合グローバル学部	Area (African) Studies	春
Kinyua, Laban Kithinji	法政大学	Global Interdisciplinary Studies	Politics of Africa	秋
椎野若菜	上智大学	総合グローバル学部	特講(アフリカの家族と親族)	秋
品川大輔	国際基督教大学	教養学部	社会言語学	冬
武内進一	外務省		「アフリカ情勢を深く理解するために」	2024年5月9日
武内進一	学習院女子大学		「ルワンダのジェノサイドとそれから」	2024年11月19日
中山裕美	青山学院大学	国際政治経済学部 国際政治学科	人の移動と国際関係	秋
村津蘭	慶應義塾大学	文学部	人間科学特殊ⅢA (比較文化関係論)	春
村津蘭	大妻女子大学	人間関係学部	世界の歴史と文化	春

5.2.3. 修士・博士論文指導

a. 修士論文(東京外国語大学)

武内進一	Public Lands in Jeopardy: Governance Challenges and the Case of APECO	山本一輝
武内進一	ルワンダのジェンダーに基づく暴力被害者支援——国内NGOから得た課題	松岡由美子

b. 博士論文

椎野若菜	副	Politeness in Copperbelt Bemba	Subila Chilupula	東京外国語大学
品川大輔	副	南琉球宮古語久松方言の文法	陶天龍	東京外国語大学
武内進一	副	"South Africa's Stunted Developmentalism: Challenges of Ideology and Practice in Building a Developmental State"	Canisius George Lekorotsoana	University of Cape Town
武内進一	主	"Analysing the Challenges of the Education Sector Policy on the Prevention and Management of Learner Pregnancy: A Case Study of Selected Public Rural Schools in Namibia"	Dorthea Nanghali Etuwete Shiningayamwe	東京外国語大学
武内進一	主	"Addressing the challenges of corporate social responsibility in Sub-Saharan Africa: the importance of the legal approach"	Achille Gildas Ndong Ntoutoume	東京外国語大学
武内進一	副	"Unveiling the complexities of Syrian forced migrants and Turkish community integration using a factor-based approach"	Ziad Alahmad	東京外国語大学
武内進一	副	"A Study on the Connection Between Internet Users' Emotions and the Transmission of Buzzwords in SNS"	Fei Wang	電気通信大学
武内進一	副	"Data-driven Models and Hybrid-ensembles in Streamflow Prediction"	Manzu Gerald Simon Kenyi	電気通信大学

5.3. 対外活動、社会貢献

5.3.1. 外部機関からの委託業務

石川博樹	国立民族学博物館	共同研究員	2024年4月1日～2025年3月31日	「アフリカの人びととはいかに「アフリカ史」を語ってきたか：アフリカのローカルな歴史からみた「アフリカ史学史」」(代表：中尾世治)
大石高典	日本熱帯生態学会	庶務幹事	2024年4月1日～2025年3月31日	学会運営
大石高典	生き物文化誌学会	評議員	2024年4月1日～2025年3月31日	学会運営
大石高典	帝京科学大学	附属フィールドミュージアム外部評価委員	2024年4月1日～2025年3月31日	
大石高典	NPO法人 平和環境もやいネット	理事	2024年4月1日～2025年3月31日	
Kinyua, Laban Kithinji	Japan Society for Afrasian Studies	評議員	2023年4月1日～2024年3月31日	Vice-president
椎野若菜	文化人類学会	評議員	2024年5月～現在	第59回JASCAプログラム作成委員
椎野若菜	日本アフリカ学会	理事	2024年5月～現在	
椎野若菜	比較家族史学会	理事	2011年～現在	渉外委員
椎野若菜	ナイル＝エチオピア学会	評議員	2010年～現在	
椎野若菜	「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会」Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences (GEAHSS略称ギース)	幹事	任期：2024年10月1日～2025年9月30日	第7期幹事学協会(副委員長)
武内進一	日本アフリカ学会	会長	2024年4月1日～2026年3月31日	学会運営
武内進一	一般財団法人戸田国際財団	理事	2025年1月～2027年3月	理事会、評議員会への出席
武内進一	日本国際政治学会	企画・研究委員会委員	2024-26年期	

武内進一	認定NPO法人 UAPACAA国際保全 パートナーズ	理事	2023.10.1～2025.9.30	
中川裕	日本言語学会	評議員	2021年4月1日～2024年3月31日	学会運営
中川裕	日本音声学会	評議員	2022年4月1日～2024年3月31日	学会運営
中川裕	日本言語学会	編集委員	2021年4月1日～2024年3月31日	学会誌編集
中川裕	World Congress of African Linguistics	Steering committee member	2020年4月1日～2024年8月30日	学会運営
中山裕美	グローバル・ガバナンス 学会	理事(会計担 当)	2024年5月～2026年5月	学会運営

5.3.2. マスメディアからの取材・問い合わせへの対応

武内進一	新聞	日本経済新聞	「虐殺30年のルワンダ、情報通信テコに経済成長続く」	2024年4月8日
武内進一	新聞	South China Morning Post.	“Japan sells itself as Global South’s China counterweight with whistle-stop tour of Africa, South Asia”	2024年5月4日
武内進一	新聞	日本経済新聞	「ルワンダ虐殺30年 奇跡の成長功罪 カガメ大統領、4選へ」	2024年7月15日
武内進一	テレビ	TBS Nスタ	「資源大国で“死のボート”に乗る理由 沈没相次ぎ…毎年、数百人規模の死者」	2025年2月12日

5.4. 外部資金の獲得

5.4.1. 代表者

石川博樹	科学研究費 基盤研究(B)「第2次イタリア・エチオピア戦争をめぐる人種・民族問題の研究」(課題番号:21H00556)	文部科学省・日本学術振興会	2021年4月1日～2025年3月31日
大石晃史	科学研究費 基盤研究(C)「公共サービスをめぐる紛争の解決モデル:ラテンアメリカを事例として」(課題番号:20K04995)	文部科学省・日本学術振興会	2020年4月1日～2025年3月31日
大石晃史	科学研究費 基盤研究(C)「紛争の拡散ダイナミクス:感染症モデルを用いたネットワーク科学的アプローチ」(課題番号:23K01277)	文部科学省・日本学術振興会	2023年4月1日～2026年3月31日

大石高典	科学研究費 基盤研究(C)「カメルーン東南部の多民族社会における人口・土地利用・森林資源利用の長期動態」(課題番号:24K15429)	文部科学省・日本学術振興会	2024年4月1日～2027年3月31日
坂井真紀子	科学研究費基盤研究(C)「グローバル化する現代アフリカにおけるローカル市場の社会学的研究」(課題番号:24K15453)	文部科学省・日本学術振興会	2024年4月1日～2028年3月31日
品川大輔	科学研究費 基盤研究(B)「パラメーター連動に基づくバントゥ諸語類型論:多様性と普遍性の原理的理解に向けて」(課題番号:23H00622)	文部科学省・日本学術振興会	2023年4月1日～2028年3月31日
武内進一	科学研究費 国際共同研究加速基金(海外連携研究)「アフリカ国家建設の比較研究:担い手、手法、成果」(課題番号:24KK0024)	文部科学省・日本学術振興会	2024年10月1日～2028年3月31日
武内進一	科学研究費助成事業(基盤研究(A))「アフリカ国家論の再構築—農村からの視点」(課題番号:21H04390)	文部科学省・日本学術振興会	2021年4月1日～2026年3月31日
出町一恵	科学研究費 基盤研究(C)「アフリカ食料ネットワークへの国際穀物価格の影響に関する分析」(課題番号24K15481)	文部科学省・日本学術振興会	2024年4月1日～2026年3月31日
中川裕	科学研究費 基盤研究(A)「言語音の多様性の外延の理解拡大:3基軸データによるカラハリ言語帯の音韻類型論」(課題番号:20H00011)	文部科学省・日本学術振興会	2022年6月30日～2027年3月31日
中川裕	科学研究費 挑戦的研究(開拓)「カラハリ狩猟採集民の持続可能な識字活動の基盤」(課題番号:22K18249)	文部科学省・日本学術振興会	2020年4月1日～2025年3月31日
中山裕美	科学研究費 基盤研究(C)「生命科学技術による国際秩序変容の分析:生体情報を用いた移民管理の普及を事例として」	文部科学省・日本学術振興会	2021年4月1日～2025年3月31日
宮本佳和	科学研究費 研究活動スタート支援「ナミビア牧畜社会の伝統的権威の復活に関する人類学的研究」(課題番号:21K20078)	文部科学省・日本学術振興会	2021年8月30日～2025年3月31日
宮本佳和	科学研究費 若手研究「祖先の土地の生成に関する人類学的研究—ナミビア牧畜社会の伝統的権威と国家」(課題番号:23K12351)	文部科学省・日本学術振興会	2023年4月1日～2027年3月31日
村津蘭	科学研究費 若手研究「アフリカの呪術をめぐる情動の研究—マルチモーダル・アプローチによる」(課題番号:23K12339)	文部科学省・日本学術振興会	2023年4月1日～2028年3月31日

5.4.2. 分担者

大石晃史	科学研究費 基盤研究(B)「サイバーフィジカル融合のもとでのグローバル・ガバナンス:持続可能な平和を目指して」(課題番号:23K22087)	文部科学省・日本学術振興会	阪本拓人(東京大学)	2022年4月1日～2025年3月31日
大石高典	科学研究費 基盤研究(C)「パフォーマンスによるフィールドの共創的再現:人類学的教育実践の協働と展開」(課題番号:24K04451)	文部科学省・日本学術振興会	飯塚宜子(京都大学)	2024年4月1日～2027年3月31日
大石高典	科学研究費 基盤研究(B)「焼畑による地域資源の活用と創出:日本各地の焼畑復活から描く食・森・地域の再構築」(課題番号:21H03697)	文部科学省・日本学術振興会	鈴木玲治(京都先端技術大学)	2021年4月1日～2026年3月31日
大石高典	科学研究費 基盤研究(B)「フィールドワークとフィールド実験によるホモルーデンス論の展開」(課題番号:20H01409)	文部科学省・日本学術振興会	島田将喜(帝京科学大学)	2020年4月1日 - 2025年3月31日
品川大輔	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) "Microvariation in Bantu languages of South Africa: building theories from typology data"(研究課題/領域番号: 21KK0005)	文部科学省・日本学術振興会	李勝勲(国際基督教大学)	2021年10月7日～2027年3月31日
武内進一	学術変革領域研究(A)「紛争影響地域における信頼・平和構築」(課題番号20H05829)	文部科学省・日本学術振興会	石井正子(立教大学)	2020年4月1日～2025年3月31日
中川裕	科学研究費 基盤研究(S)「アフリカ狩猟採集民・農牧民のコンタクトゾーンにおける子育ての生態学的未来構築」(課題番号:22H04929)	文部科学省・日本学術振興会	高田明(京都大学)	2022年4月27日～2027年3月31日
中川裕	科学研究費 基盤研究(B)「現存言語資料の適正資源化:データ管理体制確立と資源再活用モデル構築」(課題番号:23K25318)	文部科学省・日本学術振興会	加藤重広(北海道大学)	2023年4月1日～2027年3月31日
中山俊秀	科学研究費 基盤研究(B)「危機言語コミュニティにおけるNew Speakerの育成」(課題番号:24K00069)	文部科学省・日本学術振興会	横山晶子(人間文化研究機構国立国語研究所)	2024年4月1日～2028年3月31日
中山裕美	基盤研究(A)「分断する国際政治における国際協調とガバナンスの政治経済分析」(課題番号:23H00039)	文部科学省・日本学術振興会	鈴木基史(京都大学)	2023年4月1日～2027年3月31日
中山裕美	基盤研究(B)「国際移民をめぐる地域協力枠組の比較研究:アジア・アフリカ・中東・中南米の事例分析」(課題番号:23K20586)	文部科学省・日本学術振興会	明石純一(筑波大学)	2021年4月1日～2025年3月31日
宮本佳和	科学研究費 基盤研究(A)「気候危機ナラティブに対するアフリカ遊動社会研究からのカウンターナラティブの形成」	文部科学省・日本学術振興会	湖中真哉(静岡県立大学)	2024年4月1日～2028年3月31日

	(課題番号:23H00031)			
宮本佳和	科学研究費 国際共同研究加速基金(海外連携研究)「アフリカ国家建設の比較研究:担い手、手法、成果」(課題番号:24KK0024)	文部科学省・日本学術振興会	武内進一(東京外国語大学)	2024年9月9日～2028年3月31日
村津蘭	科学研究費(基盤研究(B))「仮想空間における宗教的遠隔治療に関する情動・感覚の文化人類学的研究」(課題番号:23K20560)	文部科学省・日本学術振興会	De・Antoni Andrea(京都大学)	2021年4月1日～2025年3月31日
村津蘭	JSPS学術知共創プログラム(2023-2028年度)身体性を通じた社会的分断の超克と多様性の実現	文部科学省・日本学術振興会	床呂郁哉(東京外国語大学)	2023年10月30日～2028年3月31日
村津蘭	科学研究費(基盤研究(B))「マルチモーダル人類学の多文化教育への活用ツールキットの作成と実践」(課題番号:24K00188)	文部科学省・日本学術振興会	田沼幸子(東京都立大学)	2024年4月1日～2029年3月31日

5.5. 受賞

大石高典	第14回(2024年度)地域研究コンソーシアム賞・社会連携賞(「マナラボ」メンバーとして、共同受賞)	地域研究コンソーシアム	2024年11月	http://www.jcas.jp/activities/2024/10/142024_1.html
村津蘭	第36回日本アフリカ学会研究奨励賞	日本アフリカ学会	2024年5月24日	https://african-studies.com/syoreisyo/fy2024-muratsu/
村津蘭	第51回澁澤賞	公益信託澁澤民族学振興基金	2024年12月7日	http://www.sfes.jp/past/shibusawa_award/51/shibusawa51.html